みなさんこんにちは、いつも白衣の恵子先生です。

GW明け、あいにくの空模様で始まった今週ですが、高学年のお兄さん・お姉さんが1年生の傘をクルクルとまとめてあげる姿に、朝から心がほっこりしました。雨の日の気遣い、素敵ですね。一方で、下駄箱のへりに、きちんとかかとをそろえて靴をしまえる1年生がいることにびっくりしました。重いランドセルを背負いながら、おしりをつけずに脱いだり履いたりするのが精一杯なはずなのに、心を使って靴をそろえることができたことに嬉しくなってしまいました。学年が上がるにつれ、かかとが揃っている人数が増えて、最高学年の6年生の下駄箱はきれいにかかとが揃っていました。さすがですね。体が大きくなるのと同時に、心の遣い方も身に付けられていることが素敵ですよ。

さて、今週は1年生を迎える会が実施されましたね。何週間も前から代表委員さんが「どうしたらみんなが楽しめる会になるかな？」と考えて、練り上げていました。司会進行の話し方やレンジャーの設定に始まり、クイズの内容だけでなく、どうやって見せるか？ミッションの内容や指示書作成など、休み時間を使って入念に準備をしてくれていました。遊びたいのを我慢して、みんなのために活動できる代表委員さんがいるからこそできた企画ですね。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。そして、当日のむつミッション20班それぞれにリーダーとして、1年生だけでなくみんなで楽しむ関係を築いてくれた上級生の皆さん、皆さんの温かい言葉かけが傍で見ていて安心感を生み出していることを感じましたよ。ありがとう。　ジャンケンでNo1の子に拍手を送ったり、しりとりや先生の名前でヒントを出したり、３・４年生の関わりも素敵だなって思いました。お互いを認め合える関係性、睦み合いの中で育まれる姿そのものだと感じました。「ありのままのあなたでいいのよ」そんなメッセージが聞こえてきそうな時間でした。自然と各班に溶け込んでいった先生方も、そう感じていると思いますよ。ね？！先生方？

そして、今週から５・６年生の陸上競技練習や、新体力テストに向けてのスローチャレンジが始まりました。みんながみんな、ウサイン・ボルト選手のように100ｍを9秒で走れるわけではありませんよね。イチロー選手のように外野からホームベースまでボールを投げられるわけではありませんよね。だから、昨年度よりちょっとだけ速く走る、ちょっとだけ遠くまで投げる、それぞれの目標に向かって努力できるといいなって思いますよ。『ちょっとだけ頑張ってみる！』その積み重ねが大切ですよ。

ちなみに、ウサイン・ボルト選手は、背骨が曲がってしまう側弯症という病気を生まれながらに持っていました。左右のバランスが大事になるスプリンターとしては致命傷といえるハンディーキャップ。だからといって、彼は走ることをあきらめませんでした。反対に、彼は自分の骨格を生かした走り方を追究して、筋力トレーニングを行います。数年前のNHKスペシャルの取材で彼はこんな言葉を残しています。「背骨が僕を育ててくれたのかもしれない」と、そしてカメラの前に見せた曲がった背骨を覆い尽くすように鍛え上げられた背中。自分のハンディーキャップを受け入れ、その上で自分にどんなことができるのか？と問いかける。そして、ちょっとだけ高い目標に向かって挑戦してみる。世界選手権でフライングした失敗も彼の中では肥しとなる。難しいスタートという課題をクリアするためには？とまた考える。世界で一番速いボルト選手であっても、自分自身を受け入れ『ちょっとだけ頑張ってみる』ことを続けていたのですね。

さあ、今度は皆さんの番です。自分自身を受け入れ『ちょっとだけ頑張ってみる』。先生たちは頑張るみなさんを応援していますよ！！ We will support you to try a little harder!

それではまた来週、See　you next week! Have a nice weekend!!